

欧州印刷業界 NEWS



- powered by drupa -

2014 年 3 号 (冬)

この数年間、国によって成長のスピードが随分異なる様子が欧州経済に見受けられます。長年、ドイツは最も力強く成長し、欧州を牽引してきました。しかし、ドイツで影響力を持つ経済新聞『Handelsblatt (ハンデルスブラット)』によれば、2014 年の中旬から流れが変わったようです。2014 年第 2 四半期において、フランス経済が停滞を示し、イタリアとドイツは、わずか 0.2%程度ではありますが、縮小しました。このようなマクロの動きは、もちろん印刷業界にも影響しており、例えばハイデルベルグ社はリストラを継続しています。このような環境下でお届けする欧州印刷業界 NEWS・冬号のテーマとして、

- [トレンド](#) . . . 3D 印刷、包装印刷 (インテリジェント・パッケージング)
中古印刷機械販売
- [業界・企業ニュース](#) . . . ドイツ輸出の推移、ドイツ研究開発の動向
ハイデルベルグ社の本社移転
- [メッセ情報](#) . . . All in Print China 2014、swop 2015

を取り上げました。ぜひ最後までご覧ください。

第 1 部：トレンド

トレンド 1：3D 印刷

昨今、業界にとって欠かせないテーマとなった 3D 印刷は、欧州メディアも積極的に取り上げ、数多くの記事を発信しています。ドイツでは現在、3D 印刷のサービスを提供する企業が約 300 社あり、3D 印刷機械メーカーの受注状況も、とても順調です。例えば、北ドイツに本社がある SLM ソリューション社では、2014 年の上半期受注が、前年同期比 2 倍を記録するほどの好調さを見せています。そして欧州企業は、この分野で先を行く日本企業の動向を注視しています。『リサーチ・アンド・マーケット』という調査会社は、日本における 3D 印刷市場は 2018 年までに毎年 21%程度の成長率を実現する、と予想しています。主なプレイヤーとして、アスペクト社、キーエンス、松浦製作所、オープンキューブ、三菱商事などの名前が挙げられています。

出典：2014 年 8 月 29 日付 Handelsblatt 誌
2014 年 7 月 21 日付 Print.de サイト、<http://3druck.com/> サイト

トレンド2： 成長する包装印刷（インテリジェント・パッケージング）

[欧州包装 NEWS・2014 年 3 号](#)でもお伝えしましたように、包装をより機能的にするためには、最先端の印刷技術が必要です。薬品・食品包装において、包装が開けられているか、あるいは賞味期限を保っているかどうかなど、製品の安全性は特に重要です。欧州委員会



が、2017 年以降の薬品包装に対し、偽物対策を講じることをルール化したのは、安全性を重視していることを示すものです。欧州包装産業は、すでに対応をりはじめています。ひとつの事例は、interpack の出展者である『モンディ社』のスマート ID バッグです。それには、それぞれを識別する QR コードが印刷されています。

ドイツ印刷業界の主要メディア『ドイツ印刷者』は、安全を保つ包装印刷 / インテリジェント・パッケージングをテーマとする調査を提供しています。ドイツ語のみではございますが、まとめの記事を[こちら](#)からダウンロードしていただけます。

写真：<http://www.mondigroup.com/products/desktopdefault.aspx/tabid-1734>

出典：2014 年 6 月 11 日付 Print.de サイト

トレンド3： 中古印刷機械販売が上向き



印刷機械の購入は、大規模な投資であるため、現在業界が直面する難しい経済状況下では、新しい機械を入手する余裕がない企業も存在します。機械メーカーにとっては、本来望ましくないかも知れませんが、中古機を導入することは、業界全体からみると、問題を解決してくれる可能性のひとつと言えます。ドイツで開催されるメッセでは、中古機械販売は通常対象外ですが、ケルンの『Usetec』のように、中古機を出展製品として含むイベントもございます。専門誌『ドイツ・印刷屋』は、中古印刷機械ディーラーの地図を無料で提供しています（ダウンロードは[こちら](#)）。

出典：2014 年 5 月 18 日付 Print.de サイト

第2部：産業・企業ニュース

ドイツの輸出はピーク

ドイツの貿易は、変わらず順調に推移しています。ドイツ統計局のデータによりますと、7月の輸出が1,000億ユーロを超える規模で、大変記録的な数字です。主な輸出先は欧州各国ですが、ロシアへの輸出は政治的な危機の影響を受け、大幅に減速しています。中には、対露輸出が20%も減った機械メーカーもあります。今後の展開についての予想は難しいのですが、ドイツ機械工業連盟（VDMA）は、対露経済制裁に関する特別ホームページを立ち

上げ (<http://www.vdma.org/russland-sanktionen>)、主要情報の提供に努めています。

出典：2014年9月9日付FAZ誌、<http://www.vdma.org/russland-sanktionen>

ドイツ研究開発の動向

経済発展の重要な柱のひとつは、研究開発です。ドイツはその先駆者で、最近のデータによりますと、国内総生産の3%に相当する金額を、新技術開発・発展に投資しています（ちなみに、この比率を上回るのは、日本、スカンジナビア、韓国）。研究開発費の大部分は、民間経済が貢献しています。しかし、最近の動きが話題となっています。それは、ドイツ企業は研究開発部門をますます国外へ移動させており、そのため、国外での研究開発増加率が国内のそれを上回っていることです。もちろん、人件費の影響もあるかと思われますが、それだけでは説明できないのでは、という声もあります。大学、研究機関をはじめとした、ドイツの研究開発インフラが世界トップレベルの競争力を備えているのか、と疑問を抱く声も聞こえます。

出典：2014年2月26日付・2013年12月10日付Handelsblatt紙

ハイデルベルグ社の本社移転

ハイデルベルグ社のリストラは、欧州印刷業界NEWSをはじめ、数多くのメディアに取り上げられています。同社がハイデルベルグ市を去り、別の都市へ移転することは、非常に象徴的ですが、業界が苦しんでいる中で、リストラを断行するマーケットリーダーは、コスト削減も考えなければなりません。経営側からみると当然の流れだと言えるのですが、労働側、特に労働組合は、本社移転、さらには計画の一部として提案されているライプツィヒ工場閉鎖について、強く反対しています。これは、ハイデルベルグ社だけではなく、ドイツ産業全体にとって、大きな挑戦と言えます。ドイツ交通機関の機能が麻痺状態に陥るとみられる、労組によるストが予定されているとのこと。一番影響を受ける市民は、この問題に対し、どのようなスタンスをとるのでしょう。

出典：2014年10月18日付Spiegel誌、2014年8月26日付German Collection誌

第3部：メッセ情報

All in Print China 2014 は成功裏に終了

中国・上海にて行われた All in Print China 2014 は、史上初めて週末を通しての開催となりましたが、過去最高の結果とともに、大盛況裡のうちに終了しました。中国内外のグローバル企業を中心に、680社が出展参加し、展示面積は全7ホール・82,000㎡に達しました。来場数は、4日間で延べ106,653人を記録しています。日本企業も数多くご出展いただき、その存在感を十二分に発揮していただきました。次回は、2016年10月18日～21日に、同じく上海新



国際博覧中心（SNIEC）にて開催されます。

上海国際包装産業総合展 – swop 開催決定

すでに実績のある『CHINA-PHARM – 中国国際製薬産業展』を核に、
『PacPro Asia – 中国国際包装資材製造・加工展』、『FoodPex – 中国国際食品加工・包装産業展』、『BulkPex – 中国国際バルク包装技術・機器展』を加え、急速に発展する中国包装市場の全てとこれからを示す『swop / Shanghai World of Packaging – 上海国際包装産業総合展』を、2015年11月に開催します。包装印刷は、『PacPro Asia』の出展製品としてカバーされています。初開催ながら、全5ホール・およそ55,000㎡の規模でスタートを予定する『swop / PacPro Asia』への出展を、この機会にぜひご検討ください。



欧州印刷業界 NEWS・2014年3号は、いかがだったでしょうか？ご意見やご要望をお聞かせいただければ幸いです。

【発行】(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

【編集 担当】メルケ・橋木【メッセ担当】橋木

<http://www.messe-dus.co.jp> ・ <http://drupa.messe-dus.co.jp>



本ニュースレターの掲載情報は発行日現在のものであり、予告なく変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。